

第31回電気通信普及財団賞

テレコム社会科学部門 総評

テレコム社会科学賞の「テレコム」は英語の' telecommunication' の略語である。それは、「遠くへ」の' tele' と、双方向の情報交換である' communication' との合成語であるが、' telecommunication' が電気通信と訳されているように、電気通信ネットワークを介した双方向のコミュニケーションを表現する用語が「テレコム」である。

これまでの応募作品を振り返ると「テレコム」分野における大きな変化が読み取れる。その流れは、「テレコム」のネットワーク研究からインターネット、プラットフォーム、メディア融合、ソーシャルメディア、個人情報保護と展開しており、一言で言うならば「テレコム」研究の分野は拡大を続けている。

本年度の受賞作品をみてもプライバシー権、ウェブコミュニティ、ローカルテレビなどの幅広い用語がキーワードとなっている。今後も研究分野の拡大が続くことは、現実の市場動向をみても容易に予想できる。しかしながら、そのようなサービスの広がりには電気通信ネットワーク、特に、グローバル時代においては、衛星通信や海底ケーブルで結ばれる国際通信ネットワークが安定的に運営され、その伝送帯域が拡大を続けるなかで可能になっていることも忘れてはならない。

今回もそのようなネットワーク研究は応募作品のなかにみられたが、今後も電気通信ネットワークに関わる研究の進展も望みたい。加えて、ネットワーク、プラットフォーム、端末などの分野を対象とした経済学、経営学、法律学、社会学、政策研究などの多領域からの作品の応募に期待したい。